茜雲

大口高校だより

鹿児島県立
大口高等学校
〒895-2511 伊佐市大口里2670
TEL 0995-22-1441　FAX 0995-22-9227

完全復活！　5年ぶりの体育祭

９月７日，５年ぶりの体育祭が開催されました。応援団長の楠元悠大君の力強い選手宣誓で始まり，100m走，全員リレー，綱引き，そして生徒たちで振り付けを考案したダンスなど，爽やかな汗を流しました。結果は，３年生(青組)が優勝。この勢いで，進学や就職の試験に臨んでほしいです。

生徒会長選挙速報!

９月19日，生徒会長選挙が行われました。６人の立候補者が公約を打ち出し，それぞれの応援演説者が人柄などを紹介しました。投票は，伊佐市選挙管理委員会から実際の選挙で使う投票箱を借用。

即日開票の結果，見事生徒会長に選ばれたのは１年生の中渡南翔君でした。新会長の意気込みや抱負などは「茜雲」11月号で詳しく紹介します。お楽しみに。

県議会探訪記

９月25日，生徒会役員６人が鹿児島県議会を訪問し，本会議の傍聴や，県議会議員との意見交換を行いました。

県議会を傍聴するのは全員が初めての経験で，最初は緊張気味でしたが，意見交換の場では少子化問題，国際交流などのテーマで議論を深めました。

NHKで野球部復活特集

９月26日，ＮＨＫ総合テレビ「情報WAVEかごしま」で，今年復活した大口高校野球部が特集されました。平成４年に廣瀬監督に率いられた大口高校ナインが，ＮＨＫ旗争奪選抜高校野球大会で見事優勝した時の懐かしい映像も交えて紹介されました。

単独チームで出場して一勝を挙げ，鴨池球場に格調高い大口高校校歌が再び流れるのを期待したいです。

就職試験向けの面接練習

９月４日，大口ロータリークラブの会員が面接官を務める模擬面接会が伊佐農林高校で実施され，本校からも就職試験を受ける４人が参加させてもらいました。

赤池真心君は「学校でも練習しているが，初対面の面接官だとすごく緊張した。」，田中詩穂さんは「いい経験になった。本番に向けて更に練習を重ねたい。」と感想を述べていました。

金山ネギ植え付け体験

９月16日，総合的な探究の時間で地元野菜の「金山ネギ」のＰＲや消費拡大に取り組んでいる２年生の男子生徒４人が，菱刈田中の大塚聖作さんの農場で苗の植え付けに挑戦しました。専用の機械を使って丁寧に植え付けていきましたが，野平陸叶君は「まっすぐ１列にならず難しかった。」との感想。

なお，この４人は11月19日に鹿児島市のアミュ広場で開催される食育フェスタにも出展して，金山ネギをＰＲする予定です。

英語弁論大会出場

９月21日に甲南高校で開催された鹿児島県高等学校英語弁論大会に，２年生の堀ノ内咲良さんが出場しました。

堀ノ内さんの弁論は「True Happiness」というタイトルで，知覧の平和祈念館を訪れたことをきっかけに，79年前の太平洋戦争やウクライナ，パレスチナなどで現在起こっている戦争の実態を踏まえ，平和について深く問いただす内容でした。

毎日当たり前のように平和に暮らしていることのありがたさを改めて考えさせられました。

予告！

大好評につき，「大口高校ふるさと歴史講座」第３弾，開催決定！今回のテーマは“国鉄山野線がもたらした伊佐の繁栄”です。現在，講師の交渉中です。皆様よくご存じの先生もお呼びする予定です。「広報いさ」(10月15日発行のお知らせ版)にチラシを折り込む予定ですが，詳細が決まり次第大口高校のＨＰへアップしますので，こちらも随時ご確認ください。

「大口高校ふるさと歴史講座」要旨その3

【第４回目】７月５日(金)18:00～20:00

講　師：新東 晃一　先生
（南九州郷土研究会会長）

昭和41年，大口高校卒業して岡山理科大学に進学。鹿児島に帰ってきてからは，県教育委員会の職員として各地の遺跡の発掘調査を手がけ，歴史資料センター黎明館や上野原縄文の森の創設にも尽力。現在は「大口城を愛する会」の会長として，新納忠元の居城である大口城跡を新たな名所にすべく，ボランティアで整備作業を続けておられます。

テーマ：「大口城と新納忠元～関白豊臣秀吉の薩摩侵攻と大口城」

新納忠元と大口城が最も注目されたのは，天正15(1587)年の豊臣秀吉の島津氏征伐の時です。「九州御動座」とも呼ばれ，島津氏にとっては御家存亡の最大の危機でしたが，大口城主新納忠元にとっても難解な出来事でした。秀吉は，川内の泰平寺で島津家当主である島津義久の降伏を受け入れ，大口を経由して帰路に就きます。大口では，天堂ケ尾に陣を築いて，大口城にいる新納忠元に対峙しますが，忠元は主君島津義久の命で秀吉に帰順しました。天堂ケ尾関白陣の山頂には，昭和初期に建立された記念碑があります。当初「天堂ケ尾関白陣」と刻む予定でしたが，揮毫を頼まれた東郷平八郎は，薩摩を侵攻した豊臣秀吉の名前は書きたくないと「新納武蔵守忠元」と記したと伝わっています。

ところで，平成５(1993)年に，天堂ケ尾関白陣から防塁跡とみられる土塁・石塁が発見されました。大口市教育委員会の依頼を受けて，私と山城研究の第一人者である三木靖先生が中心となって本格的に調査を行いました。土塁・石塁は高さ80cmから120cmで，延長2.3kmにも及ぶことが分かりました。しかし，地元の古老たちの証言から，この石塁等は昭和初期に牧場建設の際に築かれたことが判明しました。

大口城は現在の大口小学校の裏山にあり，「大口城を愛する会」によって平成28年から現在まで約８年かけて調査と整備作業を行っています。大口高校の吉満校長や大口小学校の垣内校長も毎週土曜日の午前に行う作業に参加していただいており，本当に頭が下がる思いです。なお，整備した部分には，再び土地が荒れないように桜の苗木を植樹しています。その数850本を数えましたので，２年後の新納忠元生誕500年を迎える時には1,000本桜となって，忠元公園と並ぶ伊佐市民の憩いの場となることを期待しています。

【第５回目】７月８日(月)18:00～20:00

講　師：安藤　保　先生（九州大学名誉教授）

鹿児島大学法文学部を卒業後，九州大学大学院に進学。鹿児島大学，九州大学と母校の教授として勤務。黎明館専門委員，鹿児島県史料編さん顧問等を務める。専門は近世薩摩藩史で，特に経済史や教育史に造詣が深い。先入観や先行研究にとらわれず，厳密な史料吟味に基づく歴史研究を続けておられます。主著に『郷中教育と薩摩士風』，『菱刈町郷土誌』（共著）など。

テーマ：「二才咄格式定目と郷中教育」

「朝鮮出兵に当たり，留守役の新納忠元が青少年の風紀の乱れがないよう，武道を嗜み山坂達者を心がけ，忠孝の道に背かないよう武士の守るべき道を説いた二才咄格式定目が，その後の薩摩藩の郷中教育の基本とされた。そしてこの郷中教育で育った薩摩の武士たちによって明治維新は成し遂げられた。郷中教育は素晴らしい教育システムである。」

郷中教育について，一般にこのように説明されています。では，本当にそうなのでしょうか。本日は，先入観を取り払い，当時の史料を客観的に検証していきます。

まず，二才咄格式定目の原本や制作年次を明記した史料は存在しません。内容について見てみると，戦時における掟は，慶長２年の義弘掟のように，禁止・是正すべき具体的な指示と厳罰主義が特徴です。むしろ，二才咄格式定目が必要とされる前提は「倭之麻環」にあるような江戸中期以降の風紀が乱れた状態にあるときです。すなわち，二才咄格式定目は，新納忠元が活躍した慶長初期の戦時における風俗の乱れに対応するのではなく，世の中が安定した時代における二才教育にふさわしい内容です。その象徴的なものが「山坂達者」で，平和な時代においても体を鍛えておくことが肝要と説いています。

江戸後期になると，二才咄の行動は身体鍛錬はともかく，規則に則った精神修養や学文修行とはほど遠いものになっていきます。そこで，島津重豪は国風の改革に乗り出します。藩校造士館を設置して学問を興し，言語・容貌の是正を行ったりしますが，なかなか成果はあがりませんでした。島津斉彬は，官製の郷中掟を作りこれを守らせます。郷中教育を藩が管理したわけです。学問を奨励し，優秀な者を選抜して藩外に遊学させる仕組みを作ります。五代友厚は斉彬によって長崎に派遣され，世界に目を開いていきます。

郷中教育は確かに優れた一面はありますが，これだけで優秀な人材が育ったわけではありません。近代日本の基礎を作った人々の多くは，これに加えて藩外やさらに海外留学などを経験することで広い視野や知識を得ていったのです。